

昼休みのおしゃべり

ここは東京にある公園です。近くにはたくさんの会社があって、昼休みにはこの公園のベンチに座って、昼ごはんを食べる人も多いです。

その中に、二人の女性がいます。一人は長い髪を後ろでまとめて、眼鏡をかけている、真面目そうな人です。でも、眼鏡越しに見える目はキラキラしていて、笑っています。隣の女性は、その人よりは少し若い印象です。髪は明るい茶色で、柔らかなウェーブのある髪をゆったりと下ろしています。

ちょっと二人の会話を聞いてみましょう。

「ねえねえ、先輩」

「なに、リカちゃん」

若く見える女性の名前はリカ、もう一人はリカさんの先輩のようです。

「うちの課の山田さん、ちょっとひどくないですか」

「え、そう？　なんか、言われたの？」

「ええ、いつも私がやってることに、いちいち文句言ってくるんですよね」

「そうなんだ。でも、それはリカちゃんが新人だからだよ。文句じゃなくて、指導だね」

先輩の目元は涼しげで、優しい印象です。一方、リカちゃんは笑顔ではありませんが、口元をとがらせています。

「指導かもしれませんが……。なんか、言い方がきつっていうか」

「ああ、山田さん、けっこう体育会系だからね」

「そうなんです。ここは大学の運動サークルじゃないんだから、もっと声のボリューム落とせって思いますよね」

「ああ、わかる！ 山田さん、たしかに声が大きいよね」

「そうそう、あの人、飲み会するときとか、めっちゃくちゃ声が大きいんですよ。この間なんて、隣の席の人から注意されたんですから。超はずかしかったです」

「あはは！ なんか、わかる」

二人は大きな笑い声をあげました。

「で、リカちゃん。どんなことを注意されるの」

「ああ、例えば、この間部長に頼まれて書類を作ったんですけどね。『リカちゃ

ん、ここは普通、改行するでしょ』とか『普通に考えて、こんな言葉使わないで
しょ』とか、細かいことを言われて、めんどうくさかったですよ」

「そういえば、リカちゃん、書類作成、下手だよね」

「えー、ひどい、先輩！」

また、二人は大きな笑い声をあげました。

「山田さん、いつも『普通はさあ』とか『普通に考えて』って言うんですよね。

あれ、けっこううざいです」

「ああ、なんか、わかる」

「ですよね」

「うん、あなたの普通は私の普通じゃありません、って言いたくなるよね」

「そうなんですよ！ あなたが勝手に普通と思ってることが、どこに行っても
普通だって思うなよって言いたくなります」

そこで、先輩は少しリカさんの目を見つめました。

「まあ、仕事ってお互いの普通をすり合わせて、共通の普通を作っていく作業で
もあるよね」

「あ！ 先輩、いいこと言いますね！」

「でしょ？ たまには、ね」

先輩はニカッと大きく口を開けて、笑顔を見せました。

「じゃあ、先輩、会社に戻る前に、コンビニで何か甘いもの、買ってくださいよ」

「えー、なんで私がリカちゃんにおごるのよ」

「そりゃ、先輩ですもん。さ、行きましょ」

昼休みはもうすぐ終わります。二人は時々笑い声を上げながら、公園を出てきました。

(1236 字)

(2022.10 Written by Yuki MORI)

<参考資料>

- ・YouTube 「【なんやて】職場の先輩が「普通は～」といいながらトンデモ理論をぶつけてくる<【SNS アニメ】モモウメ OL 編>」

<https://www.youtube.com/watch?v=fzmqWmPne98>

(2024.6.4 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<https://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.